

令和8年度(2026年度)経済環境常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和8年(2026年)7月22日(水)
- 2 視察者 経済環境常任委員会(8名)
坂梨剛昭(委員長)、堤泰之(副委員長)、池田和貴、前田憲秀、
高島和男、中村亮彦、亀田英雄、星野愛斗

3 視察の概要

(1) 有明工業用水道 上の原浄水場(玉名市)

有明工業用水道は、菊池川、竜門ダム湖を水源として、昭和50年6月に給水を開始。上の原浄水場から名石浜工業団地等の企業13社に工業用水を配水するとともに、大牟田市、荒尾市の上水道及び福岡県の工業用水道にも分水している。令和3年度からは、コンセッション方式により、民間(ウォーターサイクルくまもと株)へ運営委託。

今回の視察では、企業局及びウォーターサイクルくまもと株から、有明工業用水道の概要について説明を受け、浄水場内の施設を見学した。

説明者からは、同浄水場は工水目的のため水道水と比べて許容される濁度の基準値が高く沈殿池のみで濾過池はないこと、汚泥については全量を有価物(商品)として販売していること、などの説明があった。



(2) 新規工業用水道事業の浄水場予定地等（菊池市）

企業局では、半導体関連産業の集積が進む中、地下水取水量の削減に寄与するため、有明工業用水道の未利用水を活用してセミコンテクトパーク周辺の半導体企業等に給水する新規工業用水道の整備を進めている。

今回の視察では、企業局から新規工業用水道整備事業の概要について説明を受け、送水に活用予定の既存農業用の貯水池（3号ファームポンド）や新設浄水場整備予定地を車窓から見学した。

企業局からは、インフラ整備交付金（補助率 40%）を活用し、事業費約 200 億円で浄水場、配水池、管路（全長約 15 km）を新たに整備すること、供給水量は日量最大 12,000 m³で、その分、地下水採取量の削減に寄与すること、などの説明があった。



(3) くまもと半導体グリーンイノベーション協議会（セミコンテクトパーク周辺半導体関連企業）

くまもと半導体グリーンイノベーション協議会は、熊本を中心とする半導体関連産業と技術の発展を推進し、くまもとの産官学金がまとまり関係する国内外の企業及び団体と連携することにより、持続性のある安心・安全で豊かな社会の実現に貢献するため、令和 7 年 2 月に設立。

今回の視察では、協議会及び会員企業から地下水保全に関する取組みについて説明を受けた。

協議会及び会員企業からは、地下水涵養量を増やす取組みやリサイクルによる地下水使用量を減らす取組みを行っていること、排水については、法より厳しい自社基準を導入したり、モニタリングやサンプリングを常時行い結果を行政と共有していること、などの説明があった。



（４）くまもと地下水財団水田湛水事業現場（大津町）

くまもと地下水財団は、熊本地域の人々の暮らしを始め、農・工業など産業活動の礎である地下水について、地域の住民・事業者及び行政機関等それぞれが、この地域の台地に地下水の広がりがあることを再認識し、一つの共同体として、地下水の健全な循環環境の整備に取り組むことにより、地下水と地域社会の持続的な調和を図ることを目的に、平成24年1月設立。

今回の視察では、同財団の地下水量保全を目的とした取組み（水田湛水事業）について、事業現場にて説明を受けた。

財団からは、平成25年から同事業を開始したが、協力農家が開始当初の3戸1haから17戸14haに増加していること、大津町真木地区の5ヵ所の湧き水を活用して地下水で地下水を育てていること、などの説明があった。

